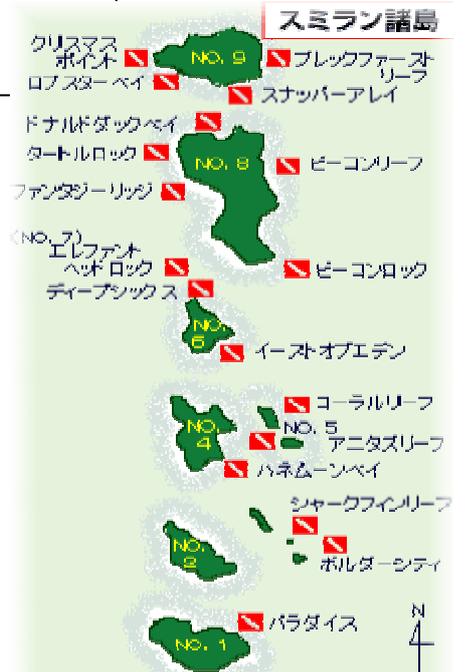


限定クルーズ スミラン諸島 & 南アンダマン海 11 日間クルーズ

2009 年 4 月 29 日 ~ 5 月 09 日
WTPスタッフ 水垣 歩

スケジュール

- 1 日目: タイ航空にてプーケットへ(バンコク経由)
パヌニーヨットへ乗船、オリエンテーション後、出港
- 2 日目: スミラン諸島 2 ダイブ・コボン 2 ダイブ
- 3 日目: リチエリューロック 3 ダイブ・タチャイ 1 ダイブ
- 4 日目: タチャイ 1 ダイブ・コボン 2 ダイブ
スミラン諸島 1 ダイブ 夜、BBQ パーティー
- 5 日目: スミラン諸島 3 ダイブ
- 6 日目: 下船、プーケット市内にて自由行動
1 航海のみの方は空港へ、バンコク経由で帰国
2 航海引き続き参加の方は再乗船
夜、2 航海目より参加の方、乗船。
オリエンテーション後、出港
- 7 日目: ヒンデン 2 ダイブ、ヒンムアン 2 ダイブ
- 8 日目: コハ 3 ダイブ、ピビ島 1 ダイブ
夜: BBQ パーティー
- 9 日目: ピビ島 4 ダイブ
- 10 日目: 下船、プーケット市内にて自由行動
タイ航空にて帰国(バンコク経由)



今回、パヌニーヨットで廻るスミラン諸島 & 南アンダマン縦断 11 日間ツアーに参加してきました。通常、クルーズはスミラン諸島もしくは南アンダマン海だけというトリップが多いのですが、今回は両方廻るといってプーケット縦断トリップ。もちろん、どちらかだけの参加も OK。スミラン諸島 & 南アンダマン両方、スミラン諸島だけ、南アンダマン海だけと都合に合わせて 3 通りの行程が組める贅沢な限定ツアー。

スミラン諸島は何度か訪れたことがあったのですが、スミランクルーズの王道ともいえるリチエリューロックには機会に恵まれず、まだ訪れたことが無かったので、今回こそはリベンジ、という意気込みと、2 航海目の南アンダマンは初めて訪れる場所なので、どんな出会いが待っているのか楽しみに出発の日を迎えました。

ほぼ時刻どおりにプーケット到着。プーケットより車で 40 分ぐらいのところには港があります。通常スミランクルーズに行く場合は空港より車で約 1 時間半、南下した場所にあるカタと呼ばれる地域のシャロン港、もしくは約 2 時間、北上したカオラックにあるタラム港を利用することが多いのですが、今回はそのどちらでもなく、空港とシャロン港との中間地点の港、ラサダー。スミラン諸島に行くにはカオラックのほうが近いのですが、カオラックまでの車移動が少し長く、またカタから出港するにはスミラン諸島までが遠い、ということなので今回は中間をとったラサダー港から出港です。クルーズに乗り込みオリエンテーションと夕食。これからスミラン諸島に向けて夜中、船を走らせます。

翌朝には青い空に青い海が広がっているのを楽しみに早め就寝です。

4 月末はスミラン諸島の海はもうシーズンが終わりに近づいています。5 月中旬には雨季が始まる為、天候が不安定になりやすい時期。今回のツアーも天気を少し心配していたのですが、そんな心配は無用。朝デッキに上ってみると絶好のダイビング日和です。

スミランとは数字の 9 の意味。その名の通り 9 つの小さな島々が南北に並んでいます。その 9 つの島の周りにはたくさんポイントがありダイバーを飽きさせることはありません。

初日 1 本目は手杓クダイビングも兼ね #5 の島近くにあるアニアズリーフへ。ここは癒しのポイントとして知られています。浅場から緩やかに深場へと落ちる白い砂地の所々にはハードコーラルとソフトコーラルが広がり、その周りにはキンギョムダイがあちらこちらに、キンギョナハダイをよく見てみると体の長い固体が混じっています。近くになると岩穴に隠れ、様子を伺うようにヒョロヒョロ顔を出す。鮮やかなオレンジ色にクリクリの目、笑っているような口元。何も愛らしい顔を持つハナダイギンボは私のお気に入り。



砂地には、赤い涙を流しているように見えるインド洋の固有種「オロロパトナゴビ」少し小ぶりの「ヒレナガネジリンボウ」など 8 種の住処となっています。そして浅瀬に戻る途中にはアンダマンジョーフィッシュそしてガーデンテイルが。ここにはチンアナゴとスハゲツテイルガーデンテイルの 2 種類がいるのですが、私には違いがわかりません。浅瀬に戻るとサンゴのそばにコラーバタフライフィッシュ。この魚はインド洋固有種、顔をよくみると目の上にある黒い模様が平安時代の眉毛のよう。私の中で彼のあだ名は「マロ」。流れも無くチエックダイビングには最適なマッターリ&癒しダイビングになりました。

本日最終ダイブはタチャイへ移動。タチャイには「ボン」より約80キロ北上した場所であり、タチャイ島から程近いところにツインピークスと呼ばれる、南北に2つの隠れ根のポイントがあります。メインは南の根で、このポイントも大物ポイントとして名が知れている場所。メインの大きな棚の周りには小さな岩がいくつもあり、ツバメウオ、ギンガメアジ、バラクーダ、ロウニンアジといった回遊魚のほかに、マンタやナポレオン時にはジンベエザメまで現れるおいしいポイント。ただ流れが強いことが多く、今回もその例に漏れることなくガンガンに流れていました。流されないように注意しながら中層を見上げると、中層には小魚を狙うカスミアジが編隊をなし、その迫力は圧巻。

そして次の日の1本目もタチャイのツインピークスへ今日も流れています。昨日同様、カスミアジが小魚目掛け突っ込んでいく様子や、そして今日はロウニンアジも登場。その他、タイマイやバラクーダ、ツバメウオなど、このポイントの魚影には圧倒されました。

1日でのダイビング行程、スミソククルズで見れる大物回遊魚は一通り見れたのではないかと思います。ただ1日を除いては・・・そうジンベエザメです。

やはり、ジンベエザメが見たい。この気持ちはみんな一緒です。1日でチャンスを賭けポイントへ再び戻ります。



そして望みをかけポイントへ。そして2本目ダイビング。結果は・・・残念。マンタはたくさんヒラヒラと優雅に舞っていたり、タイマイが夢中で食事をしていたり。そして2本目安全停止中にフラックマンが！残念ながら上からしか見れなかったのですが、通常のマンタより色が黒くかっこいい感じがします。次回は是非下から見上げてみたいと思いました。ジンベエザメに会えなかったこと意外は満点の海でした。

サンセットダイビングはスミソク諸島に戻ります。サンセットダイビングから上がると、デッキからBBQの匂いが。今日は船のデッキでBBQパーティーです。蟹やエビ、チキンポーク、ビーフ。次から次に焼きあがっていきます。海風が心地よく、外で食事もちょうどいいものでした。

サンデッキで BBQパーティー



そしてあつという間に、スミソク諸島最終ダイビングです。

まず1本目はエレファントヘッドロックへ。名前の由来はその名の通り岩が象の頭に見える・・・うーん、微妙・・・象といわれれば象なのかもしれないが・・・さて水中の中には、たくさん

の巨大な岩や小さな岩が積み重なっています。岩と岩の隙間や下を、くぐっている時に隙間から見える青い光は、とても現像的です。深場にはハタタテハヤやアケボノハゼ、アンダマシヨ、フィッシュが住み、洞窟の中にはフエダイやクロシヨウダイが住んでいます。浅瀬にはクマザサ、ムナム口がたくさん舞っています。壮大な地形の幻想的なポイントでした。

そして2本目エレファントヘッドロックに引けをとらない地形ポイント。ディーブシックスダイビング。このポイントも大きな岩や小さな岩が転がったように積み重なっているユニークな地形。一切、人間の手は加えられておらず、長い年月をかけ自然が作った地形です。自然のすごさを見せつけられました。



水中は癒しワールド

ラストダイブはザロックへ。本来はもう1本潜る予定でしたが、天気が怪しいため帰港の安全を最優先。コナーよりエントリーをし、やや深場に大きな岩がありソフトコーラルが鮮やかに多い浅場です。砂地にはアンダマシヨ、フィッシュやアケボノハゼ、クロコリハゼ、ブラックシヨウゴビなど、ハゼがたくさん。湾内のサンゴにはテングカワムキやイレズミハヤなど。

ラストダイビングは、流れも無く、透明度も抜群、日の光も注ぐ気持ちのよいダイビングでスミソク諸島を締めくくりました。





天候が荒れる前にブーケット船港です。22時過ぎには港に無事到着。そのまま停泊して朝を迎えます。翌朝、1航海で終了のゲストは荷物をパッキングし、引き続き次の航海も参加のゲストは荷物を残し船を一事手エグアウト。ブーケット一番の繁華街パトンビーチへ午後まで思い思いの時間をすごします。オプショナルツアーに参加したり、マッサージでリラクゼーションしたり、買い物をしたりと何でも揃っています。私はというと、まずはさぶり2時間マッサージをし、通りにあるお店を少し物色、お腹が減ったのでジャンクセイロウという大きなショッピングモール内のバーガーキングで少し遅めのお昼食べながらタラタラと集合時間まですごしていました。タイにきてまでファーストフード？と思うかも知れませんが、無性にジャンクフードが食べたくなってしまった私。クルーズを降りたらバーガーにポテトそしてオニオンリング！と決めていました。

そして驚いたこと。バーガーキングの値段は日本もタイもほとんど一緒。物価は違っても値段が一緒なんて、現地に住んでいる人にとっては、どれだけ高級なファーストフードなんだ、と思わないのかな。と疑問に。でも観光客目当てのお店だから関係ないのかな。とクルーズ船考をめぐらせながら、ずっと食べたかったファーストフードを堪能しました。

午後、空港に向つ組とお別れをし、港へ2航海目からのゲストを待ち、出港です。明日からは南アダムン海です。

2航海目はブーケットを南下。ザピーチで一躍有名になったこの島をさらに南下すると25キロヒンアン・ヒンムアンがあります。北部の横綱リチエグーに対し、南部の横綱といつても過言ではないかと思えます。まず1本目はヒンアンへ、外洋の中に3つ岩がちょこっと頭を出しています。

ヒンアンとはタイ語で赤い岩。その名前の通り大きな岩に覆い茂っているイソギンチャクが光に当たり岩に赤いカーペットが敷いてあるように見えます。水深70Mまで落ち込む岩の南側にはソフトコーラルやウミウチワが広がり丁寧な探していくとタイガーシーフォースやヨウジウオ・フリンデレエなどが隠れています。2本目はヒンムアンへ。ヒンムアンとはタイ語で紫の岩。ヒンアンより300Mぐらい西のほう離れた場所にある水中に隠れた根。東西に長い隠れ根は1タイプでは廻りきれませんが、浅瀬には紫のソフトコーラルが茂り、お花畑のよう。そしてこのポイントにはジンベエポイントでもあります。まずエントリーの際にマンタがいるとクルーが、タイ人クルー目がいい。私たちは何処にいるのかさっぱりです。皆あわただしくエントリー。そしてあっさりマンタと遭遇。と思ったら、出ました。ジンベエサメ！マンタの背後から悠然と泳いでやってきました。しかも大中小と3個体も。はじめて水中で出会うジンベエサメはやはり大きかった。大きいジンベエサメは8メートルくらいあったかと思えます。可哀相なことに尻尾にロープが絡まっていました。ガイドさんが解いてあげようと努力しましたが嫌がって深場へ、何の障害もなく、自然に取れることを祈るばかりです。

初めてのジンベエ。しかもマンタとのランデブ。今まで待った甲斐がありました。私の顔を悠然と泳ぐ姿はカッコいい。一言です。でもマンタで顔を見ると少し間の抜けた顔をしていますね……。船に上がってから話題はジンベエとマンタの話で持ちきり。初日からみんなのボルテージが上がります。



ジンベエガメ出現！！



そして次もジンベエサメとの再会を期待して、2本目と同じヒンムアンへ。ジンベエは……。マンタはたくさん舞っているのですが、ジンベエは中々姿を現してくれませんが、残念と安全停止をしていた時、後ろに気配が。願いが届いたのか、一番大きなジンベエが姿を現してくれました。ジンベエサメのすぐ横のソフトコーラルのお花畑では、マンタが数枚グルグル円を描いています。左を見ればジンベエ、右を向けばマンタ。驚沢な光景でした。

サンセットダイビングはヒンアンで降り、今日のダイビングは終了。大満足な1日となりました。

そしてマンタも



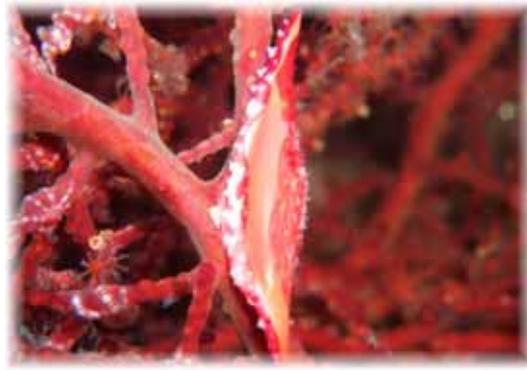
タイ屈指のケーブポイント



翌日はコバ移動。コバはタイ語で5つの島。ピピ島南部に浮かぶ島々になります。1本目はコバヤイへ。2本目はコバヌア。3本目はコバグリーンへとタイピング。コバヤイ・コバヌアは必見の洞窟ポイント。

ヤイとはタイ語で大きいという意味。コバヤイとは5つの一番大きい島という意味になります。コバヤイのケーブには大きな2つの入り口があり、中つながっているのが、スィムスルが出て来ます。またヌアとはタイ語で北を意味します。コバヌアは一番北の島という意味。コバヌアには細い縦穴が2つあり、それが下の穴でつながってアルファベットのVの形に見えます。下の穴から上の穴を見上げると太陽の光が差し込んで綺麗。透明度がよければ、とても幻想的だったのですが、今回は残念ながら透明度はいまいち。それでも2つの上の穴から差し込む光が途中で一つになり、その光を魚が受け、スポットライトを当てられているように綺麗でした。

コバグリーンはその名の通り島と島に囲まれたグリーンリーフダイビングポイントになります。エダサンコヤンソフトコラルの中をスヌマイ系の魚やチョウチョウウオが気持ちよさそうに泳いでいました。そしてそのソフトコラルやウミウチワを丁寧のぞくとシーフォースやニシキフウライウオも見つかるのでしたが、見つけれませんでした。けれど、鮮やかな色のケボリガイがたくさん見つけれました。



サンセットタイピングは、島移動です。今回はサンセットチーム、ナイトチームに分かれてタイピングです。私はサンセットチームに加わりました。ポイントは、島ロサヌン。湾内に大きな岩がたくさんあり、エダサンコヤンがたくさ。透明度がいまいちだったが残念。タイピング終了後、ピピ島からは陽気な音楽が風によって聞こえてきます。ザビーチの映画で一躍脚光を浴び、今や世界中からたくさん旅行客がやってくるリゾート地です。2004年の津波ではほぼ壊滅状態になってしまったそうですが、今はその面影もないくらいに復興され観光客で賑わっているようです。今夜はピピ島から流れてくる音楽をサウンドバックにBGMになりました。

神秘の島 “ピピ”



お昼休憩中に、ブーケットとピピ島の間にいるシャークポイントへ移動。このポイントは大きな根が3つ並んでおり、岩にびっしりと茂る色とりどりのソフトコラルには目を奪われます。美しい一言で表現してしまうのは、申し訳ないほどの光景でした。そしてそのポイント名の通りレオパードシャークが、今までのタイピング、レオパードに良く合えるといわれているポイントの数々では見事はすしてしまいました。やはりアンタマム海にきたら、この子も見ないといつ定番の生物です。普段寝ていることが多いのですが、時折泳ぐその姿には惚れてしまいます。長い尾びれを優雅に軽やかにくねらせ、スイーと泳ぐ姿を下から見上げるのが私のお気に入りです。

大きな固体になるとお供を連れていくことが多く、コバインザメなどは定番なのですが、今回見た個体の1匹は鮮やかな黄色の体をした熱帯魚を何匹もお供として連れていました。その光景は、微笑ましく、思わずにらみとしてしまつ雰囲気を感じていました。

そしてラストタイピングでは、まだ見たこと無かったタイガーシーフォースを見ることができました。この生物もアンタマム海の固有種。同じシャークポイントで岩のくぼみに隠れているのがガイドさんが見つけてくれました。奥のほうに恥ずかしく隠れている姿を、みんなで順番に覗いていく光景は、他人の家を窓から覗き見をしているような感じでした。かわるがわる違う顔が岩穴から出てきて、さぞかし驚いていたかもしれせん。

ピピ島は大きく分けてマブレン、マブレイ、ピタナイ、ピタノックの4つの島で成り立っています。ドンは大らかな丘、レイは小さな丘、ナイは内側、ノックは外側という意味で、その名前の通りの配列で並んでいます。人が住んでいるのはマブレン。あとは無人島です。

石灰岩の断崖絶壁の岩の壁。その岩に囲われるように出来た入り江にはエメラルドグリーン色の海。長年の月を歳月をかけ、自然が造りあげた景観は、美しくもあり、神々しくもあります。

本日のタイピング2本はピタノックとピタナイへ海の透明度は良くないことが多いのですが、そのぶん栄養豊富な海中には、たくさん魚があらわれています。砂地には何十匹ものマールレイが戯れ、岩壁や切れ目を除くとそこにはマクロ生物も豊富でした。



寝てばかりいるレオパードシャークも 減ぐせ……………すこいんです!!



気づいてみれば、あっという間に帰りの日がもう目の前に。振り返ってみるととても充実したものでした。スミラン諸島では多種多様なポイントを楽しみ、「ボーンではマンタが舞い、念願のリチリュエーに満足し、「オムチャイで回遊魚の迫力に圧巻。ヒンデンヒンムアムンではマンタとジンヘイサメのランデブー、「ムン洞窟探検を楽しみ、「ムンではレオパードシャーク。地形、ワイド、大物、マウロと全てを楽しめたといっても過言ではないかと思えます。

そして下船後は、シヨックングやマッサージ、ビーチでのんびり、バー一杯：などなど夕刻のフライトの時間までを好き勝手に堪能できます。ビーチで乗馬とおしゃべりなすこい方をされたゲストもいらつしました。クルーズでダイビングだけでなく、陸でもブーケットの街を楽しめるのもうれしいところ。ダイビングは楽しんだけれど、陸は移動だけ…街はどんな雰囲気だったか分からない。なんて事とは無縁です。海も陸も満喫。この言葉がぴったります。

今回お世話になったパヌーヨットは、これが今シーズンのラストのアンダマントリップ。ブーケットはこれから本格的な雨季のシーズンに入ります。7月から始まる次の新トリップに備え、念入りなメンテナンスそして次の秘宝の海、インドネシアのテラワンサンガラキ諸島に向います。パヌーヨットに乗船は今回が2度目。去年9月のテラワンサンガラキクルーズ、そして今回のスミラン諸島&南アンダマン海クルーズ、いつも居心地のよい空間、そして宝物がいっぱいの海へと案内してくれます。パヌーヨットのオーナーは、プロ顔負けの水中カメラマン。ダイバーの心をとらえ方を知っています。また乗りたいと思わせる航海を次から次へと用意して、私たちの乗船を待っています。